

1 研究主題

互いに高め合う児童の育成
～「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくり～

2 研究主題設定の理由

社会が著しく変化する現代においては、児童が自己実現を目指して学び続けていけるようにしていくことや主体的に社会に参画して未来を自分たちの手で創造していけるようにしていくことが必要だと言われている。本校では、「人間性豊かで意欲的に学び、生き生きと活動する児童を育成する」を学校目標として、自ら学ぶ児童、満足できる学校、自分から学ぶ教師、主体的・対話的で深い学びのある授業を目指し、教育活動を展開している。

昨年度は、「予測困難な社会に自立できる子どもを9年間を通して育てる～互いに高め合える集団づくりを通して～」を研究主題として「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりの研究を進めてきた。質の高い対話を目指した対話指導において、具体的な聴き方、訊き方の方法を示すことで、児童も指導者も手応えを感じることができた。しかしながら、深い学びに焦点化した授業における課題づくりでは、基礎・基本の定着が不十分であるために学びが広がらなかったり、児童の振り返りを予想して課題を設定することの難しさを感じたりした。

そこで今年度は、対話指導、課題づくりに引き続き取り組むとともに、基礎・基本の定着にも努めたい。以上のことから、研究主題を『互いに高め合う児童の育成～「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくり～』とした。

3 主題のとらえ方

「互いに高め合う」とは、児童が自他を尊重しながら、協同して課題を解決していこうという姿であり、そのために必要なのが「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりであると考え。そのための授業改善として、中央教育審議会「答申」より、次のように求められている。

- ①学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。
- ②子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
- ③習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

これらの3つの視点に立って、児童の学びの過程の質を向上させることで、互いに高め合う児童の育成につながるものとする。

4 研究仮説

- (1) 全教育活動において、学習の基礎・基本の定着に関する指導を行えば、児童の学びの幅を広げることになり、互いに高め合う児童が育つであろう。
- (2) 全授業において、「質の高い対話」を目指した対話指導を行えば、児童の伝えたい思いや知りたい思いが表現することになり、互いに高め合う児童が育つであろう。
- (3) 「深い学び」に焦点化した授業において、学ぶ意欲を引き出す課題の設定を行えば、児童が課題とゴールを意識して学習に取り組むこととなり、互いに高め合う児童が育つであろう。

5 研究内容

(1) 基礎・基本の定着

①学習の基礎・基本の定着を図る。

- ・朝の学習の時間に、ドリルやプリントを使った復習をする。担任以外の教員も指導にあたり、児童の学びの支援をする。
- ・家庭学習目標達成週間の最終日に確認テストを行い、学習の定着の様子を把握する。
- ・基礎・基本を身につけることによって、授業の中で、児童がこれまでに学んだ学習をもとに、学びを広げられるようにする。

②家庭学習の充実を図る。

- ・家庭学習の手引きを作成し、学年×15分を目安に自主的に家庭学習に取り組めるようにする。
- ・家庭学習目標達成週間に、保護者から児童への励ましのコメントをもらうことで、家庭学習への意欲をもたせる。
- ・自主学習を紹介し合うスペースを作り、互いに高め合えるようにする。

(2) 「質の高い対話」を目指した対話指導

①「聴く力」「訊く（尋ねる）力」を育てる。

- ・朝の会にペアトークを取り入れ、気軽に話せる雰囲気作りを構築するとともに、児童が聴いたり、訊いたりすることを身につけられるようにする。
- ・「分からない」ことを見つけながら聴いたり、本当に分かるまでどのように訊いたりするかを指導するために、低・中・高学年別のレベルアップカードを児童に配付し、朝の会のペアトーク時や、授業中の対話に困ったときにすぐに確認できるようにする。また、教室には「話の聴きかた」「友だちへの訊きかた」を掲示する。

レベルアップカードの活用

ききかた レベルアップカード (1・2年)	ききかた レベルアップカード (3・4年)	聴き方・訊き方 レベルアップカード (5・6年)
名前 () 〇あいつちをうちながら、きく。(ともだちのはなしを いっしょけんめい きく。) 「うん、うん」 「へーっ」 「ふーん」 「そうなんだ」 「なるほど」 「いいね」 「それで」 〇はなしをききながら、かんじたことをいったり、しつもんしたりする。 かんじたこと 「～おもしろい」 「～すごい」 「～やっだね」 「～ふしぎ」 「～こわい」 「～かなしい」 「～つらい」 しつもんする 「えっ、どういうこと？」 「どうして？」 「どうしたの？」 「それから、どうしたの？」 「どれくらい？」 〇はいごに、きいてみたいことをしつもんする。 「～のところ、もう1かい、いって」 「～のところ、もっと詳しく、いって」	名前 () 〇おなかであいつちをうちながら聴く。(友だちの話にきょうみをもって聴く。) 「うん、うん」 「へーっ」 「ふーん」 「そうなんだ」 「なるほど」 「いいね」 〇自分がきょうみを持ったことや感じたことについて、質問する。 「～のところ、もう1回、言って」「～のところ、もっと詳しく言って」 「えっ、どういうこと？」 「それって、どういうこと？」 「どうして、そう思ったの？」 「それって、どうしたの？」 「それから、どうしたの？」 「そのとき、どんな気持ちになった？」 〇話を聴いたあと、感じたことを伝える。 「～したところが、おもしろい」 「～したところが、すごい」 「～したところが、感動しました」 「～のところが、ふしぎでした」 「～したところが、こわかった」 「～したところが、かなしかった」 「～したところが、つらかった」 「～したところは、自分もそういうことがあったと思いました」	名前 () 〇友だちの話をイメージしながら聴く。(友だちの話に関心をもって聴く。) 「うん、うん」(うなづきながら) 「へーっ」 「ふーん」 「そうなんだ」「そうなのかな」 「なるほど」 「いいね」 〇相手がもっと話したいことを想像して、相手の話を引き出すような質問をする。 「～のところ、(おもしろかった)から、もう1回言って」 「～のところ、～だったから、もっと詳しく言って」 「たとえは、どういうこと？」 「えっ、どういうこと？」 「それって、どういうこと？」 「どうして(なぜ)、そう思ったの？」 「それから、どうしたの？」 「そのとき、どんな気持ちになった？」 「それって、～ってこと？」 「ようするに(つまり)、～ってこと？」 〇話を聴いたあと、感じたことを伝える。 「～したところが、おもしろい」 「～したところが、すごい」 「～したところが、感動しました」 「～のところが、ふしぎでした」 「～したところが、こわかった」 「～したところが、かなしかった」 「～したところが、つらかった」 「～したところは、自分にもそのような経験があると思いました」

※話の聴き方（掲示物）の活用

き
話の聴きかた
～「深い学び」のために～
～毎日レベルアップ！～

○聴きながら、「わからない」を見つける。

- ・「今の言葉、わからないな」
- ・「そう考えたわけをききたいな」
- ・「どこからそう考えたのかな」
- ・「たとえば、どういうことなのかな」
- ・「ようするに、どういうことなのかな」
- ・「一番言いたいことは何だろう」

○聴きながら心の中で「おしゃべり」をする。

- ・「なるほど」「いいね」
- ・「えっ、どういうこと？」
- ・「ちょっと、（自分の考えと）ちがうなあ」

○聴いたあと、その話についての感想が言えるようにする。

- ・「今の〇〇さんの考えどう思う？」ときかれたときに、話ができる。

○聴いているとき、友だちから話を引き出す努力をする。

- ・自分が話すつもりでいっしょに言葉を考える。

き
友だちへの訊きかた
～「深い学び」のために～

○「ここわからないんだけど・・・」 → わからないことをその場できく

○「もう一回言ってくれる？」

○「それってどういうこと？」 → 意味をきく

○「なぜ、そう言えるの？」 → 根拠、理由をきく

○「どこから、そう考えたの？」

○「たとえば？」 → 具体的な例をきく

○「もう少しかんたんな言葉で言って」 → 言いかえをきく

○「たとえていうと～みたいなこと？」 → 聴き手のイメージの正しさをきく

○「要するに～ってこと？」 → 聴き手の要約の正しさをきく

②対話による学び合いの場を授業の中に設定する。

- ・学習活動の中で、友達と関わり合いながら活動する場面、相手に考えを説明する場面、教科書をもう一度読むことで課題解決につながる場面など、対話を必要とする状況を意図的に作り出すようにする。

（３）学ぶ意欲を引き出す課題の設定

①適切な難易度、必然性のある課題を設定する。

- ・各教科において、単元ごとに「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす授業を決める。
- ・授業をデザインする際に、「1人では解決が難しいけれども、仲間と力を合わせれば解決できるかもしれないと思える課題」や、「学ぶことで生活につながる課題」を設定する。

②自己の変容を自覚できる振り返りができるようにする。

- ・授業の終わりには、ノートやワークシートに振り返りを書くことを基本とし、低・中・高学年で、振り返りの視点を明確化して教室に掲示する。
- ・「自己の変容」とは、「自分の考えが初めと違うものになった」だけでなく、「思いや考えを確かめることができた」「思いや考えが広がった」ことであることを、教師も児童も理解し、変容の様子を振り返りで書けるようにする。

ふりかえりの視点

ふりかえり 1・2年生

- ①わかったこと
- ②じぶんやともだちの考えのよかったところ
- ③まなびあいで、じぶんのがんばり
- ④わからなかったこと
- ⑤もっとがくしゅうしたいこと

ふりかえり 3・4年生

- ①わかったこと
- ②自分や友だちの考えのよかったところ
- ③学び合いを通して、自分の考えがかわったこと
- ④もっと学習したいこと
- ⑤生活や学習で使いたいこと

ふり返り 5・6年生

- ①わかったこと
- ②自分や友だちの考えのよかったところ
- ③自分の考えが変わったり、深まったりしたこと
- ④もっと学習したいこと
- ⑤生活や学習で役立てたいこと

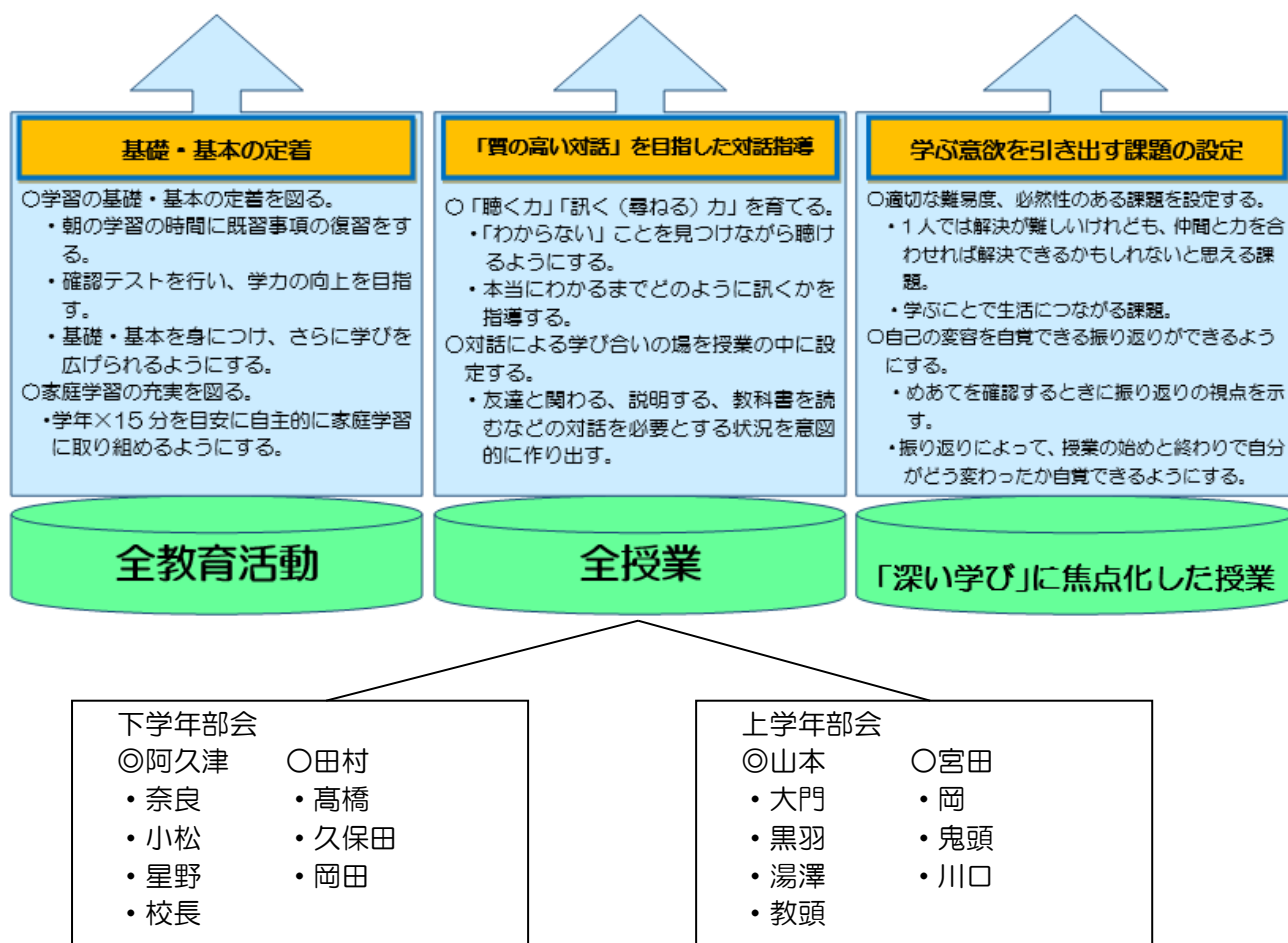
6 全体構想・研究組織

令和2年度 学校課題 日光市立大沢小学校（大沢中学校区小中連携・一貫教育）

《ゴール》

互いに高め合う児童の育成

～「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくり～



7 仮説検証の視点

- (1) 朝の学習の時間や、家庭学習の充実を図ることで、児童が学習の基礎・基本を身につけることができたか。
- (2) 朝の会のペアトークの時間や、学習活動の中に対話による学び合いの場を設定することで、児童の「聴く力」「訊く力」を高めることができたか。
- (3) 「学ぶ意欲を引き出す課題」を設定し、児童が振り返りにおいて、自己の変容を言葉で表現できるようになったか。

8 検証の方法

- (1) 学校課題研修会・授業研究会
- (2) NRT学力テスト結果分析
- (3) 単元テスト結果分析
- (4) アンケート調査結果

9 研究計画

月	内 容
4	
5	5/27(水) 学校課題研修(研修の進め方)
6	
7	
8	8/ 3(月)「模擬授業研修会」(大沢中学校区小中連携・一貫教育)
9	9/23(水) 授業デザイン検討会
10	10/7(水)・10/5(月)・9/28(月) 研究授業()
11	11/ 4(水) 授業デザイン検討会 11/18(水)・16(月)・11(水) 研究授業() 11/20(金) 大沢中学校区小中連携・一貫教育公開授業研究会(南原小) 参観
12	
1	1/ 8(金) 授業デザイン検討会 1/20(水)・25(月)・27(水) 2/8(月) 1/18(月) 研究授業()
2	2/10(水) 学校課題(成果と課題, 次年度の研究推進の方向性)
3	